

博士学位論文要旨

論文題目(和文): 賀川ハル研究—信仰、女性、市民社会

論文題目(英文): A Study of Haru Kagawa - Faith, Women, and Civil Society

氏名: 岩田三枝子(いわた みえこ)

本論文は、明治・大正・昭和期に、市民社会における活動を展開したキリスト者である夫・賀川豊彦(以下、豊彦)(1888(明治 21)～1960(昭和 35))との公私において生涯にわたるパートナーシップを可能にした賀川ハル(以下、ハル)(1888(明治 21)～1982(昭和 57))の活動と思想を、ハル執筆による一次資料の分析を中心として、実証的に考察するものである。特に、キリスト教信仰に関連する思想、女性観及び家族観に関連する思想、そして市民社会に関連する思想の三つの側面に着目する。その上で、今日における男女のパートナーシップのあり方、またキリスト者の市民社会活動への参与のあり方への示唆を導き出すことをめざす。

ハルは、キリスト者市民社会活動家である豊彦の妻として、豊彦の市民社会的活動からキリスト教的活動に至る、広範囲の活動を長きにわたって共に担ったが、ハルは単に豊彦の妻という枠組みにとどまらない女性でもあった。豊彦の働きを支えただけではなく、彼女自身が中心発起人の 1 人となり覚醒婦人協会という労働者女性のための運動を展開し、また、豊彦の死後は、20 年以上にわたって幼稚園や出版社の理事長職を担い、亡くなる前年の 1981(昭和 56)年には、93 歳で名誉都民賞も受賞している。また三人の子の母親でもあった。さらに 24 歳でキリスト教信仰を持った後、スラム活動時代には路傍伝道を行い、晩年にも頻繁に家庭訪問や説教、講演を行った。このようなハルの活動は、単に豊彦の妻という枠組みを超えて、ハル個人としても、市民社会活動家としての評価に値する。

豊彦については近年、神学、社会学、哲学等の多方面からも注目されてきたが、一方、ハルについてはまだ本格的なまとまった十分な研究は多くない。多方面での業績を残した豊彦の妻として、その陰に隠れていたためかもしれない。また現実的理由として、多くの執筆を残した豊彦に比べて、2009 年に『賀川ハル史料集』全 3 巻が発刊される以前は、ハル自身が執筆したものは一般的には極めて手に入りやすく、彼女がどのような思想を持っていたのかを把握する材料が揃っていなかったこともあるだろう。

ハルについては、例えば「ハルにも考えや主張があった」(賀川純基)や、ハルの見識は「固有の視点を感じさせもする」(倉橋克人)、「生涯にわたり、最大の理解者・協力者となったのは芝ハルという女性、後の賀川ハル婦人」(加山久夫)、「ハル自身の独自性」(三原容子)、さらに「ハルは豊彦の影響を深く受けたが、それに甘んじることなく、彼女自身の思想を、より積極的に女性解放運動へ、また貧しい人々の救済へと活動の幅を広げていった」(鍋谷由美子)等、豊彦の理解者であったと同時に独自の思想を持つ女性としての指摘があるものの、どのような点に独自

性があるのか、その思想とは具体的にどのようなものであるのか、また豊彦との協力を可能とした思想は何か、さらにハルが活動の中心を担った覚醒婦人協会とハルの思想との関連等は、先行研究の中では十分には明らかにされていない。

このような研究の現状において、ハルに関する研究そのものに独自性があると考ええる。

以上をふまえ、本研究は次の三点において、意義を持つと考える。第一に、キリスト教信仰者・女性・市民社会活動家としてのハルを、神学的側面・女性学の側面・公共哲学等の側面から学際的に考察することで、ハルを多角的視野から理解する事を努める点である。第二に、賀川豊彦・ハル夫妻において、従来夫・豊彦に比重が置かれていた研究にハル研究が加わることにより、賀川夫妻をより総合的視点から理解する点である。第三に、歴史におけるハルの意義のみならず、今日の市民社会におけるハルの思想の意義を追求することである。

本論文は、次のように構成される。第 1 章では、後の信仰生活や市民社会活動の基盤となる倫理観や思想が、ハルの幼少期から青年期にかけてどのように形成されたのかを、家族との関わりを中心に分析する。また、第 2 章ではハルのキリスト教信仰、第 3 章ではハルの女性観、第 4 章ではハルの市民社会における活動と思想をそれぞれに考察する。この三つの側面は各々が独立した側面ではなく、ハルという一人の人間の中で統一されたものであるゆえに、個別に検討するが三つは常に関連し合う。第 5 章は、ハルの具体的活動として、ハルが発起人の一人となった婦人運動である覚醒婦人協会に焦点を当て、その特徴を分析することにより、ハルの思想との関連を考察する。最後に総括として、結論と今後の課題を述べ、本論文を閉じる。